

巻頭言

絵文字から emoji へ

-この 10 年余りに起こったこと-

清水 由美子



絵文字をめぐるこの 10 年余りの変化には驚かされる。

2008 年当時、携帯メールの絵文字利用において日本は世界有数の先進国（?!）であった。携帯電話に先立つモバイルメディアであるポケベルの時代から、♡など数種類の絵文字が提供されていたが、1999 年 2 月の NTT ドコモによる i モードサービスで 176 種が提供されることにより、本格的な絵文字入りメール時代へと突入したのである。

2005 年頃には、日本における携帯メールの絵文字利用は若い女性ばかりではなく、中高年の女性や若い男性にまで広がっていた。とはいえ、こうした現象はあくまでも日本限定であり、欧州と共通仕様の携帯電話を発売することになったボーダフォンでは、欧州版にも絵文字機能を入れてはとのボーダフォン日本の提案に“絵文字機能は日本だけで欧州では不要”と回答していた由（朝日新聞 2005 年 9 月 10 日朝刊）。日本と欧州のこの温度差はどこから来るのか。当時は日本以外の国では絵文字入りメールのみならず、携帯メールそのものの利用率が低いことが話題となっており、なぜ日本でだけ絵文字を使ったメールが隆盛を誇るのかが様々に論議された。「メディアと表現」「視覚情報表現論」といった科目を担当する私は、授業の中でいくつかのデータを提示して、受講生に日本と諸外国のメールの使い方の違いなどを考えてもらったりもした。

時は過ぎ、2015 年である。ボンヤリとテレビニュースを見ていた私の目にこんなニュースが飛び込んできた……“2015 年の単語大賞に絵文字が選ばれた”！単語大賞とは英語の流行語大賞ともいうべきもので、その年によく使われ、大きな関心を集めた単語や表現をオックスフォード辞典が選んだものである。ここで選ばれた絵文字は😭“Face with tears of joy”であった。さらに時は過ぎ 2016 年 10 月、このニュースの衝撃も大きかった……“ニューヨーク近代美術館（MoMA）が 1999 年に NTT ドコモが携帯電話向けに開発した 176 種の「絵文字」を新たに所蔵品として加えた”！！10 年少し前には欧州の携帯電話会社で歯牙にもかけられなかった絵文字が、世界の emoji になったことを実感した瞬間であった。

この背景にあるのが絵文字の Unicode 化と SNS の隆盛である。Unicode はデジタルでの表現における文字コードの業界規格であるが、日本の携帯電話会社各社がそれぞれの絵文字の魅力を武器にユーザーを自社製品に囲い込もうとしていた頃、Google は携帯電話の絵文字を Unicode に登録するための準備を行っていたのであった。

絵文字のここ 10 年余りに起こった出来事は、デジタル表現が表現のみでは成立し得ないことの一例である。デジタル時代においては絵文字一つ取っても、それがシステムに使い勝手よく組み込まれていること、サービスが廉価であり誰もが気軽に使えること等、様々な条件が揃わないと多くの人が使うコンテンツにはならない。2010 年に Unicode に登録された絵文字は翌 11 年、iPhone に機能が搭載されて広く世界で利用されるようになり、SNS の発展も加わって世界の emoji になったのであった。

SHIMIZU Yumiko

東京都市大学メディア情報学部社会メディア学科教授（執筆当時）